



親の気を引く
学校バッシング
の報道があふれ
るなか、菊池氏
は、「教室は社
会の縮図」とし
て、学校教育、
家庭教育、社会

教育の全体に対して、問題を指摘する。親は学校へのリスベクトを子に伝えず、

また、学校側公
に対する意見の
出し方について

知らない。地域
は、負担やリス
クを負ってでも

「子ども会」な
どを運営したり、
気になる家庭に

「大丈夫ですか」
と声掛けしたり
しづらくなった。

子どもたちの「よくなりた
い」という感情は、素では一致して
いるものの、その先の感情はバ
ラバラ。学級単位で「皆が一緒」
と考える時代は終わった。その
なかで氏は、「ひとりが美しい」
「群れるな、集団になれ」として
集団行動の仕方を子どもたちに
示す。

菊池氏は、子どもたちが言葉



甦る教室

学級崩壊立て直し請負人

菊池省三、吉崎エイジニヨ 著

529円 新潮文庫

03-3266-5111

で自分の考えを伝え、相手の考
えを聞けるようになるためのコ
ミュニケーション教育を実践し
てきた。「ほめ言葉のシャワー」
では、その日の直直のいいところ
をクラスの子たちが思い思いに
褒める。「成長ノート」では、
子どもが自分自身の成長を知る
ために、教師と一対一で対話する
1年間成長を続けていけば、子

どもは抽象的な
難しいテーマに
も答えられるよ
うになり、それ
が学級でも認め
られることによ
って、個が強い
集団を作り、「公
人」を目標に
せると言っている。

評者は、次の
ように考える。
個人化、流動化

のなかで、従来の価値を伝え、
新たな価値を創り出す教育の役
割が軽視されつつある。そうい
う今日、個人の成長に焦点を当て
て目標を立てさせ、自問自答させ

「強い言葉」を持たせ、「公」の
価値を伝えようとする氏の営み
は、社会的に大きな価値をもつ
と言えよう。

(聖徳大学教授・西村美東士)